

第1回 アジアパシフィック精度管理シンポジウム (APSQC)

シスメックス株式会社学術情報部 白上 篤

去る10月8日(金)、神戸商工会議所において第1回アジアパシフィック精度管理シンポジウム (Asian & Pacific Symposium on Quality Control ; APSQC) が開催されました。

本シンポジウムは、日本・アジアで精度管理・標準化に携わる各国のオピニオンリーダー達が、それぞれの国における外部精度管理 (EQA) ・標準化への取り組みに関する最新の状況を報告し、アジア全体の臨床検査の質向上へ向けた意見交換、ネットワーク構築を行う場として、シスメックス社との共催で開催されました。

第1回目の開催となる今回は、菅野剛史先生 (浜松医科大学名誉教授) が大会長を務められ、『アジア諸国における外部精度管理と臨床検査標準化の現状』というテーマのもと、主に「血液検査の外部精度管理」を中心とした発表、討議が行われました。

シンポジウムは、3つのセッションに分けて行われました。

- 1) セッション1：アジアにおける外部精度管理・標準化に関する各国からの報告
座長は、尾崎由紀男先生 (山梨大学)、宮地勇人先生 (東海大学) が務められました。
- 2) セッション2：日本における外部精度管理および国際標準化に関する報告
座長は、濱崎直孝先生 (長崎国際大学) が務められました。
- 3) パネルディスカッション：アジアネットワークを活用した臨床検査標準化へ向けて各国からの発表者を中心に、活発な討議が行われました。



菅野剛史 先生



シンポジウムの様子

セッション1では、フィリピン、ベトナム、タイ、モンゴル、中国の5カ国から、現状と今後の展望が報告されました。

1-1. External Quality Assessment in Hematology: the Philippine Situation

Dr. Ivy A. Rosales

(National Kidney and Transplant Institute, Philippines)

フィリピンにおいて1999年から10回実施された血液検査の国家規模外部精度管理スキーム (National External Quality Assessment Scheme : NEQAS) の活動について、豊富なデータをもとに、その状況を説明いただきました。

2008年からは、本NEQASが検査室登録の必須EQAプログラムに指定され、全臨床検査室が参加することが義務付けられました。フィリピンでは、約半数の施設が用手法で血液検査を実施しており、それらの検査室の評価も含めて、本NEQASが同国における血液検査の質向上において重要な役割を果たしていることが報告されました。

今後の課題として、実施頻度向上、コスト低減、試料輸送環境改善、迅速な結果返送、認知度向上、スタッフ確保などが挙げられました。

1-2. Quality of Medical Laboratory Services in Vietnam

ベトナムにおける臨床検査室のクオリティマネジメントの現状と今後の展望について、その概略プランが報告されました。現状は、ISOなどに基づいて臨床検査室の質を評価する仕組みが確立されていないことから、ベトナム保健省ではNational Quality Control Centerを設立し、基幹センターを介した地域ラボの指導体制を整備する計画を進めています。その活動の一つとしてEQAの仕組みの確立に取り組んでいることが報告されました。

1-3. Standardization on Hematology Testing in Thailand - Present and Future

Assoc. Prof. Oytip Nathalang

(Thammasat University, Thailand)

タイにおける血液凝固検査でのEQAの現状について、2つの主要なNEQAS (主催者:保健省、マヒドール大学)の内容が紹介されました。

続いて、2011年からタマサート大学保健科学部と弊社が共同で立上げを計画している血液検査における新たなEQAスキームについての報告がされました。



開会挨拶 (シスメックス社長 家次 恒)



Dr. Ivy A. Rosales

1-4. External Quality Assessment Survey for Hematological Laboratories in Mongolia

Prof. Gurjav Naran
(Health Sciences University of Mongolia, Mongolia)

モンゴルにおいて2008年から5回実施された血液検査の外部精度管理スキーム (Mongolian External Quality Assessment Scheme : MEQAS) 活動が、これまでのデータ解析結果をもとに紹介されました。

MEQAS 活動の特徴として、各サーベイの結果報告の際に必ずセミナーを開催し、解析結果の報告、乖離施設へのフォローアップ訪問を行うなど、PDCA サイクルを用いた活動として定着していることが挙げられました。その結果として、参加施設の精度管理への意識向上、検査室間のばらつき (CV) 改善など、具体的な成果が現れていることが報告されました。また、今後の展開として MEQAS を生化学分野にも拡大していく旨が報告されました。

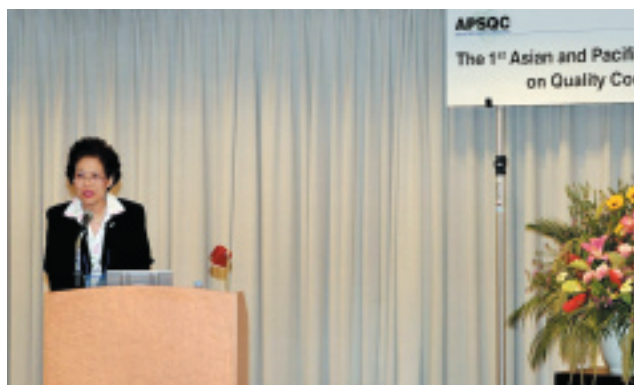
1-5. Current Status of Clinical Laboratory Standardization in China

Prof. Peng Mingting
(National Center of Clinical Laboratories, China)

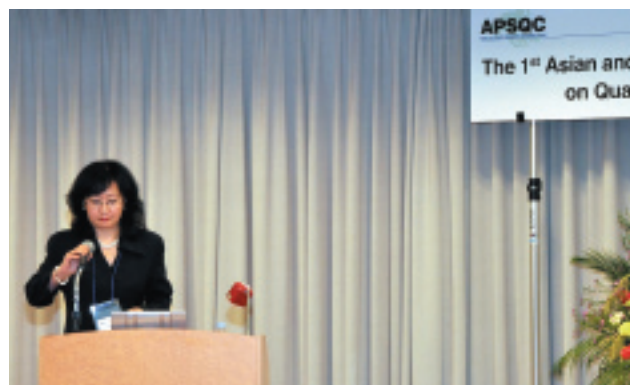
中国衛生部臨床検査中心 (National Center of Clinical Laboratories : NCCL) の役割とその活動内容について、EQA スキームの最新情報を含めて報告いただきました。

中国での NEQAS は 1982 年に始まり、2010 年には 51 スキーム、参加 3,970 施設にまで発展しています。血液検査では、CBC、凝固、形態、ESR、FCM、血液粘性、網赤血球数と広範囲に実施されています。

NCCL は、技能試験プロバイダーの国際認定 (ILAC G13:2000) を取得しています。さらに、リファレンスシステム構築においては、弊社が寄贈したリファレンスカウンターを基準としたトレーサビリティ体系を構築し、校正機関認定 (ISO/IEC 17025:2005) も取得しており、標準化を推進し、全国の検査室を牽引する存在となっています。



Assoc. Prof. Oytip Nathalang



Prof. Gurjav Naran



Prof. Peng Mingting

今後の展開としては、精度管理に関する教育プログラムの充実、基準・ガイドライン作り、地方の検査室へのサポートが挙げられました。

セッション2では、「日本における外部精度管理および国際標準化に関する報告」というテーマで、外部精度管理・標準化、および臨床検査のトレーサビリティという2つの観点からご講演をいただきました。

2-1. Standardization for Laboratory Medicine and National EQA Survey Program in Japan

Prof. Masato Maekawa

(Hamamatsu University School of Medicine, Japan)

日本におけるEQAの歩みとその成果について、主に日本医師会主催の精度管理調査における酵素活性測定標準化のこれまでのプロセスについて紹介いただきました。

3,000施設を超える大規模な国家規模調査における課題であるマトリックス効果への対処、データ解釈についても言及され、日本のEQAを活用した臨床検査標準化のプロセス・経験が、他のアジア諸国にとって良いモデルとなることがわかりやすく紹介されました。

2-2. Traceability in Medical Laboratory Testing (Case in Japan)

Dr. Katsuo Kubono

(Japan Accreditation Board, Japan)

日本におけるISO 15189臨床検査室認定制度の経緯と現状、臨床検査の標準化におけるトレーサビリティの重要性についてわかりやすく解説いただきました。

日本におけるISO 15189認定取得施設は56施設(2010年9月現在)であり、この認定スキームが浸透するにはまだ時間を要するが、着実に品質マネジメントシステムおよびトレーサビリティに基づく質の高い検査結果を提供する仕組みが浸透しつつあることが紹介されました。

パネルディスカッション

2つのセッション終了後に、「アジアネットワークを活用した臨床検査標準化へ向けて」というテーマで、各国からの発表者を中心に活発なパネルディスカッションが行われました。

EQA参加者のコスト負担、財源確保などの問題について、パネリストの国々に加え、インドネシア、インド、韓国での現状についても報告がなされ、問題解決に向けた討議がなされました。

最後に、座長の濱崎先生から臨床検査標準化の3つのキーワードとして、「外部精度管理調査」、「トレーサビリティ」、「コミュニケーション」が挙げられ、この第1回APSQCを機に、アジア各国がそれぞれの経験・ノウハウを共有し、相互に連携することにより、アジア全体の臨床検査・医療の質向上に向けて協力し合うことを確かめ合いました。

おわりに

本シンポジウムでは、12カ国から76名の方々にご参加いただき、アジア各国の外部精度管理・標準化への取り組みについて発表および討論が行われました。休憩の合間にも参加者同士の熱心な討議もあり、今後、アジアでの臨床検査の質向上を図るためには、アジア全体で連携した取り組みが必要であるとの認識が得られました。このシンポジウムは、ご参加いただいた日本およびアジアの先生方同士が交流を深めていただくのにも非常に良い機会であり、アジアでのネットワーク作りの場として、さらに発展させていけるよう今後も取り組んでいく所存です。



パネルディスカッション